令和4年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立住吉小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□でどのように話すかを書く。	50.8%	読むことについては、全国及び東京都を上回る正答率であった。叙述を基に、人物の心情や人物像、物語の全体像を想像する力が育ってきていることが感じられる。今後も互いの意見を交流しながら読みが深まるよう指導を工夫する。	文章構成や表現のもつ効果、漢字の表記に関する問題で、比較的低い正答率が見られた。日常の学習の中で漢字を用いる割合が低い様子や細かな表現の違いに注目する意識が低い実態とも合致する。言葉や文章表現を大切に読む意識が高まるよう指導を工夫する。
	【文章2】の□の部分で、どのようなことに気をつけて書いたのか、適切なものを選択する。	55.6%		
	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く。	34.9%		
	【文章2】の中の一部分を、漢字を使って書き直す。（したしむ）	66.7%		
算数・数学	14と21の最小公倍数を求める。	57.1%	思考・判断・表現の観点に関する問題の正答率が比較的高かった。習熟度別少人数指導により、自分の考えをもち、友達の考えと意見交流させる活動を意識的に取り入れていることが成果につながっていると考える。	全体的にみると、知識・技能の観点に関する問題の正答率が低い結果となった。また、プログラミングに関する問題の正答率が低いため、タブレットを活用したプログラミング学習も充実するようになっていく。
	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。	50.8%		
	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ。	63.5%		
	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ。	52.4%		